

シーン別・3ステップでCHECK!

〝1人1台端末の学校、における「個に応じた学び」

「学校における個に応じた学び」とは、生徒が主体的な学習を進められるように、ICTを活用しながら、教師が効果的に伴走する学びだ。そうした学びが、様々な教育場面でどのように実現されていくのかを見ていく。

1人1台端末整備が進行中の公立高校への編集部ヒアリングより

-  現在取り組んでいる・取り組む予定
-  今後取り組んでいきたい・いかねばならない

	コミュニケーション
<p>STEP 1 学びの保障</p> <p>予期せぬ臨時休業下でのオンラインを使った学びや、教師の業務負担を軽減した働き方改革の支援</p> <p>↓</p>	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 各種調査・アンケート（体温調査含）<input checked="" type="checkbox"/> クラスごとの連絡（学級通信代替）<input checked="" type="checkbox"/> 一斉連絡・緊急連絡（生徒）<input checked="" type="checkbox"/> 保護者との双方向連絡<input checked="" type="checkbox"/> 保護者からの欠席・遅刻連絡
<p>STEP 2 学びの置換・増強</p> <p>チョーク&トークの一斉授業だけでは困難な、より個のニーズに合わせた学び</p> <p>↓</p>	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 授業・部活動別の生徒連絡<input checked="" type="checkbox"/> 生徒との1対1の個別指導
<p>STEP 3 学び方・指導の変容</p> <p>生徒の主体性を最大限に引き出すことで実現する生徒が創造する学び</p>	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 学校外（大学・自治体・企業等）とのコミュニケーション<input checked="" type="checkbox"/> 学校 SNS（生徒発信）ツールの利用

POINT

複数のICTツールを 目的に応じて 使い分けることが重要

様々なICTツールが導入されている学校現場は今、自校にふさわしいICTツールを精選する段階に入っている。そこで重要になってくるのが、ICTツールの特性と自校の教育課題を照らし合わせながら、複数のICTツールを使い分けていくことだ。例えば、群馬県立桐生高校は、オンライン授業並びに対面授業内で使用する資料の共同作成やウェブ会議などではGoogle Workspace for Educationを、教師・生徒・保護者間の連絡や情報共有及びその蓄積、アンケート配信や集計などではClassiを使っている。一斉の情報発信・共有と、生徒の個に応じた伴走という2つの機能でICTツールを使い分ける同校のように、今後、様々なICTツールの強みを生かしていくことが、学校には求められるだろう。

授業

- プリントなどをデータで配布
- 板書内容のプロジェクター投影
- オンライン授業
- 課題の提出
- 英語のスピーキング内容の録音・提出
- 授業単位の振り返りを提出・蓄積
- 授業の理解度の可視化（前後小テスト・単元テスト結果のデータ化）
- リアルタイムに意見の集約・可視化
- 提出物のオンライン上での添削
- 授業レジュメ・板書を生徒が考え、授業を進行（教師が教えない授業）
- 成果物（書類・発表資料・ポスター）を共同編集で作成
- 生徒同士で、提出物・成果物・振り返りを共有・フィードバック

授業外学習 進路指導・探究

- 探究 | 情報検索（調べ物）
- 進路指導 | 志望校の情報調べ
- 講義動画の視聴
- 学習時間調査のオンライン実施
- 朝学習・小テストのICT化（自動採点・結果の可視化）
- 進路指導 | 行事の振り返り・活動履歴を端末で入力し、蓄積
- 電子カルテで面談
- 補習 | 成績・理解度別のコンテンツ（問題・動画）で学習
- 探究 | 発表資料作成・プレゼンテーション
- 探究 | 成果物（書類・発表資料・ポスター）を共同編集で作成
- 探究 | 他校とオンラインで課題研究を共有・議論

次ページからは、ICTを活用した「個に応じた学び」を推進する学校事例を**活用シーンとステップ別**で紹介